

The Clinical Difference in the Platelet Counts between Liver Cirrhosis with Nonalcoholic Fatty Liver Disease and Hepatitis C Virus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 五十嵐, 悠一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032623

主論文の要旨

The Clinical Difference in the Platelet Counts between Liver Cirrhosis with Nonalcoholic Fatty Liver Disease and Hepatitis C Virus

非アルコール性脂肪性肝疾患、C型肝炎における血小板数の臨床的意義の検討

東京女子医科大学消化器内科学教室

(指導：徳重 克年教授)

五十嵐 悠一

Internal Medicine 第57号 1065頁～1070頁（平成30年4月発行）に掲載

【要旨】

慢性肝疾患における血小板数低下は肝線維化の重症度指標として汎用される。

本論文は非アルコール性脂肪性肝疾患 (nonalcoholic fatty liver disease; NAFLD) と C 型肝炎における血小板低下率の比較、機序について検討を行った。

肝線維化程度を一致させて血小板数を比較すると、NAFLD の血小板数が有意

に高値であった。また肝硬変症例を診断するための血小板数カットオフ値も

NAFLD は 16.0 万/ μ L (感度 86.7%、特異度 87.6%、AUC 0.930) と C 型肝炎

の 12.7 万/ μ L (57.8%、88.2%、0.863) より高値に算出された。両疾患で

血小板低下率が異なる理由を明らかにする目的で、抗血小板抗体、血清トロ

ンボポエチン値、脾腫程度、肝硬度の検討を行った。結果有意差は認めな

かった。また両疾患とも脾腫の程度に関しては血小板数と有意な負の相関関係

を認めたが、脾腫程度の割合に有意差は認められなかった。したがって、両

疾患の血小板数減少率の差異は他の因子が関与していることが示唆された。

NAFLD、C 型肝炎の肝硬変診断において血小板数低下は有用な手段だがカット

オフ値が異なる事を考慮し診療にあたるべきである。両疾患で血小板低下率

が異なる理由は不明な点が多く更なる検討が必要である。